

# 13人のランナーが聖火をつなぐ



初夏の青空の下を元気に走った亀山ほのかさん。若さあふれる笑顔が聖火リレーを盛り上げました。



沿道には、亀山さんを応援する横断幕を掲げている姿も。この横断幕は、家族と亀山さんが所属する熊本県立第一高等学校ホッケー部員が作ったもの

聖火リレーが行われたのは、「益城町文化会館駐車場」から「惣領交差点手前」までの約2キロのコース。全面通行止めとなつた県道熊本高森線で、13人のランナーが聖火をつなぎました。

聖火ランナーたちが走る前方には、東京2020オリンピック聖火リレースポンサーのパレードが隊列を組み、聖火リレーに華を添えました。

沿道には、町で初めて行われる聖火リレーを一目見ようと、新型コロナウイルス対策を行つた上で多くの人が訪れ、トーチを持って走るランナーに拍手を送っていました。

スポンサーによるパレード。沿道の人たちに記念グッズを配りながら、この後やってくる聖火ランナーへの期待感を高めていました



## ●スポンサー枠ランナー 田崎真一さん（東無田）

熊本地震から5年間、地元東無田で復旧・復興活動に尽力

この国際的なイベントで、地震時に全世界から来ていただいたボランティアに感謝の気持ちを伝えたいと思い走りました。走り出す前に思わず、「助けてくれてありがとう」と叫びました。

熊本県立第一高等学校に通う2年生。高校ではホッケー部に所属



益城町を、全世界に発信したい！」という気持ちで走りました。走りながら、立ち並ぶ新しい家々が目に入り、町の復興を感じました。

親族が沿道で横断幕を掲げてくれていて、沿道の方々からも「頑張って」と声をかけてもらい元気が出ました。

将来は教師を目指しており、益城町で勤務したいと思ってます。その頃は地震の爪でも薄れているでしょうけど、全国各地からの応援・支援のおかげでできいいな町になつたんだよ、ということを伝えたいと思っています。